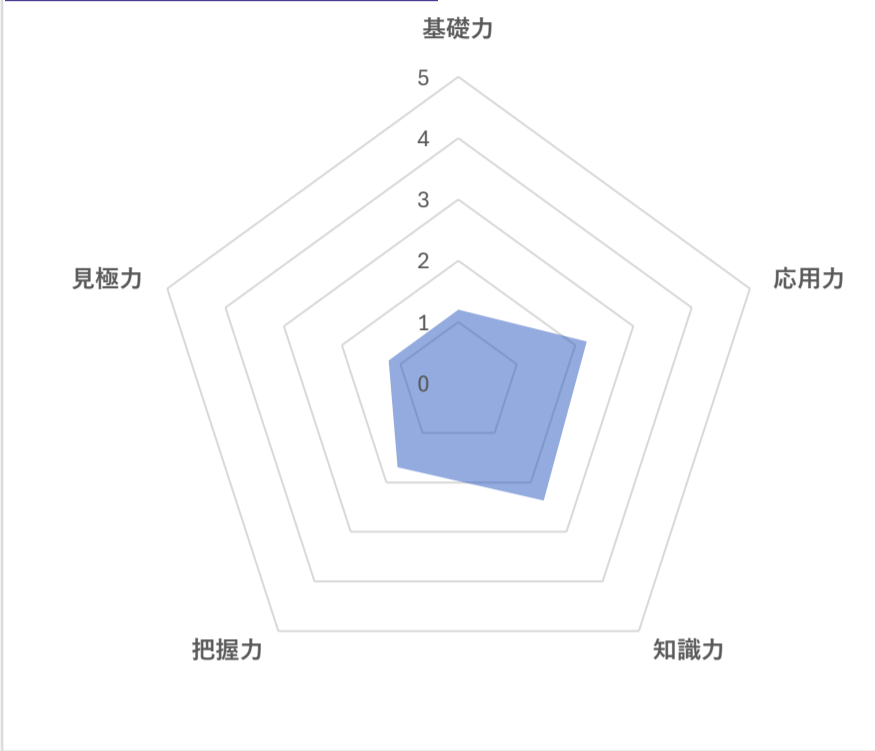


総合分析

試験区分	一般（後期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全3問
------	---------------	-----	-----

合格に要する能力（5段階）



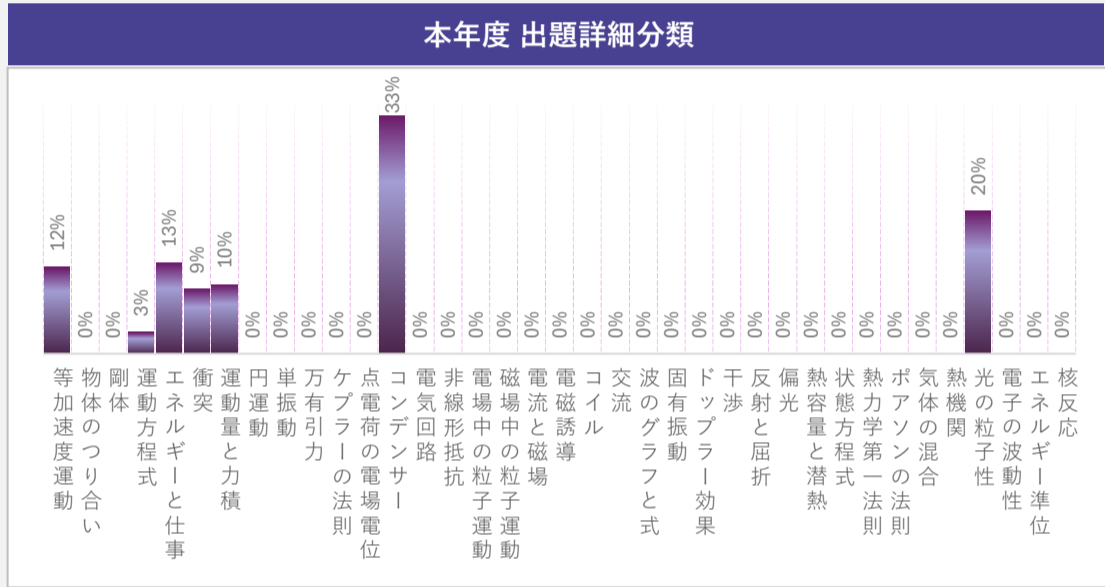
合格に要する能力（5段階）		
基礎力	1.0	原理についての理解
応用力	2.0	演習経験による慣れ
知識力	2.2	用語を正確に覚えているか
把握力	1.5	臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.0	解きやすい問題を選択する力

特記事項 特になし

出題分野	
力学	47%
電磁気学	33%
波動	0%
熱力学	0%
原子物理	20%

本年度 解答形式	
答えのみ記述	100%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	鉛直面内の物体の運動（斜面上・放物運動）
第2問	コンデンサー
第3問	コンプトン効果



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価			
難度	1.5	最難を5とする問題自体の難度	易しい
分量	33分	完答に要する時間（制限時間は60分）	少ない
一次合格に必要な正答率（予想）			80%
高い正答率を要する			

入試の特徴と対策
 ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。

入試から見る 大学が求める学生像
 標準的な問題集で典型問題として扱われる設定の問題がほとんどを占め、解答時間にもかなり余裕があるため、合格には極めて高い得点率を要する。一部、語句の知識を問う設問も見られる。前期の問題とは対照的に、難問を粘り強く解く能力よりも、平易な問題を要領よく処理する能力を重視していると考えられる。